

●ご家庭内に掲示してください。



うちどく 親子で楽しむ「家読」タイム



旭市教育委員会

「家庭での読書(家読-うちどく-)」は、子どもが本に親しむきっかけになる、読書での家族のコミュニケーションです。本を通した親子の心のつながりは、子どもにとって楽しい経験となり、読書好きな子どもを育てます。

また、全国学力・学習状況調査から、読書が好きな児童生徒は国語、算数・数学、理科の問題で正答率が高い傾向が見られました。

まずは「読み聞かせ」からスタートし、親子で読書を楽しむ時間をステップアップさせてみませんか？

ステップ1

「読み聞かせ」からスタート!

読み聞かせ 3つの効果

1「こころ」と「ことば」を育てます

子どもは、家族のあたたかな声の響きとぬくもりを感じて満足し、人と言葉で気持ちを通わす喜びを感じます。言葉を学ぶことで考える力が育ち、人とかかわろうとする気持ちが育ちます。

2家族への信頼が深まります

絵本や本を通してふれあう時間は、家族にとって楽しいひとときになり、子どもの家族への信頼が深まります。読み手も、子どもと同じ世界を共有できるのでコミュニケーションが深まり、親子の絆が増していきます。

3学ぶ力の基礎をつくります

本がつくる言葉の世界にふれることは、表現力、想像力、集中力を高め、学ぶ力の基礎をつくります。知的好奇心が育つことで、学習意欲の源となるとともに、自然と本が好きな子どもに成長し、読書の習慣が身に付きます。

読み聞かせ 4つのコツ

- 1 ゆっくりと丁寧に読むことが大切です。(子どもの想像力を邪魔しないようにおげさな表現を控えるのがポイント。)
- 2 話の世界にじっくりひたる時間にします。(話を中断して質問したり、読んだ後に感想を求めすぎたりするのはNG!)
- 3 子どものお気に入りの本は何度でも読んであげることが重要です。
- 4 読み手も楽しむとさらに効果大です。親の楽しそうな姿が子どもへのよい影響を最大限に引き出します。



ステップ2 親子で図書館に行こう

次に、親子で近くの図書館へ、子どもが喜ぶ絵本を探しに行きます。図書館であれば、いろいろな本を自由に試し読みすることができます。さまざまなジャンルの本と出会うことで、子どもの興味・関心が大いに引き出されます。

どんな本を読んだらよいか図書館職員に相談できるのも図書館のよいところです。

借りてきた本を家でじっくり読む「家読(うちどく)」の時間を作ることもおすすめです。わが家にぴったりのやり方を見つけるのはいかがですか。



ステップ3 図書館の活用

子どもが図書館を十分に活用できるようになったら、多くの本からさまざまな情報を得る調べ学習にも役立つようになります。

図書館では、小学生から大人まで、多くの人が読書を楽しんだり、勉強をしたり、調べ物をしたりと目的に合わせて本を活用しています。そのような環境の中で、子どもは自然と自分の目的のために本を活用する方法が分かり、将来にわたって読書を楽しむ習慣を身に付けていきます。



さっそく今日から 親子で20分 家読(うちどく)タイム!